

2016年2月7日 主日礼拝説教（要旨）

聖書 ルカによる福音書 12章 1～7節

説教 「この方を恐れなさい

日本キリスト教会鶴見教会牧師 高松牧人

大勢の群衆が集まって来ているところで、主イエスは弟子たちに「ファリサイ派の人々のパン種に注意なさい。それは偽善である」と話し始められました。すでに主イエスは、ファリサイ派の人々や律法学者たちが、内側の強欲や悪意をそのままにしながら、外側の清さばかりを求めている姿を厳しく批判しておられました（11：37～54）。

パン種とはパンをふっくらと焼き上げるためになくてはならないイースト菌ですが、ここでは悪い比喻で用いられています。僅かなパン種がパンをあのように膨らませるように、あなたがたの中に僅かでもファリサイ派の人々の間違っただけの生き方が混ざり込んだら、信仰生活の全体がダメになってしまうと言われるのです。

危険なパン種とは偽善であると主イエスは言われます。偽りの善、見せかけの善です。この原語のギリシア語はヒュポクリシスという単語ですが、役を演ずるという言葉からできています。偽善者という言葉は俳優と同じ言葉なのです。すぐれた俳優が迫真の演技をすることはたいへん結構なことですが、私たちが立派な信仰者であることを見せるために何か演技をしようとする、そこには無理が生じます。人の目ばかりを意識して、神の目の前に生きるということが後退してしまうのです。神に喜ばれるのではなく、人に見てもらうことが関心の中心になるのです。それは言い方を変えるなら、信じているお方よりも、信じている自分の方が大きくなってしまった状態です。

信仰とは神により頼むことです。しかし、うっかりすると私たちは神を信じるのではなく、信じている自分を信じ、信じている自分を見ている人々の目を気にし始めるのです。だから、私たちは繰り返し、神を見上げ、神をほめたたえ、神の御言葉の前に膝を屈めて礼拝するところに立ち帰らなくてはなりません。

「友人であるあなたがたに言う」（4節）と主イエスは語りかけておられます。ファリサイ派のパン種、すなわち偽善に気をつけなさいと言われる主イエスは、このことを今、愛する弟子たちに語りかけ、主イエスを信じて生きる私たちに語りかけてくださっています。主イエスがそこで強調して言われるのは恐れるなということです。どうして偽善に対する警告から、恐れるなという教えが始まるのでしょうか。私たちはここでファリサイ派流の偽善だけでなく、私たちの中でもう一つの方向に働く偽善についても気をつけなければならないことを知らされるのです。それは内側に与えられた信仰を隠し、人の目を恐れて信仰者であることをしっかり言い表さないという誘惑です。

今や主イエスに対する敵意は、弟子たちにも向けられていました。弟子たちは迫害の危機の中にありました。そのような中で、主イエスに従う信仰をはっきりと言い表すのか、それともそれを秘めて、群衆の中にまぎれ込んでいくのかということが問われている

るのです。内なる信仰を覆い隠し、世間の人々と変わらない生き方を装い、内と外とを器用に使い分ける偽善に陥ることがあってはならない、と主イエスは言われるのです。

私たちをこのようなもう一つの偽善へと誘惑するものは恐れです。人にどう見られるか、どう言われるか、という恐れです。誰もが経験し思い当ることではないでしょうか。どんなに強い人であっても、こうした恐れに取りつかれない人はいないでしょう。私たちはいったいどのようにしてこのような恐れから解放されるのでしょうか。

このような恐れからの解放は恐れから目をそむけることではなく、本当に恐れるべきお方と出会うことによって与えられます。主イエスは言われます、「体を殺しても、その後、それ以上何もできない者どもを恐れてはならない。だれを恐れるべきか。教えよう。それは、殺した後で、地獄に投げ込む権威を持っている方だ。そうだ。言うておくが、この方を恐れなさい」(4節b~5節)。すべてをご存知であり、正しい裁きをされ、地獄に投げ込む権威のある方がおられるのです。しかし、ここで主イエスは何も私たちに地獄への恐怖を植え付けようとしておられるのではありません。私たちは忘れてはなりません。人々の偽善を激しく批判された主イエスは、そのような私たちの罪のために十字架につき、死んで、葬られ、ご自身が地獄を経験した方として復活し、神の右に座し、私たちのために執り成してくださったからです。私たちの究極の審き主は、血も涙もない冷酷な審判者ではなく、私たちのために罪を負ってくださった十字架と復活の主なのです。

「恐れるな」と弟子たちにお語りになる主イエスは言われます、「五羽の雀が二アサリオンで売られているのではないか。だが、その一羽でさえ、神がお忘れになることはない」、「あなたがたの髪の毛までも一本残らず数えられている」(6~7節)。一羽では値段もつかない小さな雀の命も主の御手の中にあります。また、櫛で梳かせばもうそれだけで何本か抜け落ちてしまうような髪の毛といった私たちの気づかないところまでご配慮くださる神がおられます。神は私たちの滅ぶべきいのちを御子の十字架の血によって贖ってくださっているのです。私たちはこのような神のまなざしの中で生かされているのです。

人間のどんな鋭い目よりももっと確かにすべてを見通しておられる神の目が注がれています。人々のどんなにうるさい口よりも確かな神の赦しの宣言があります。そして、私たちの内なる思いを確かに聞きとどけてくださる神がおられます。だから、私たちは日々に出会う人々の間で、偽善の誘惑を振り払って、与えられた信仰を素直に証ししていきたいのです。「小さな群れよ、恐れるな」と主イエスは私たちに語りかけてくださいます。